



12

国際協力の見聞を深める

ALSA中央大学の ユニセフハウス見学

報告者 中央大学 長谷川 仁美さん

1. ポイント

私たちALSA中央大学は、毎週水曜日に社会問題についてのディスカッションやプレゼン大会のような学術活動を行っています。しかし、それらの問題について理解を深めるためには、机上の議論だけでは足りません。実際に外に出て社会問題にかかわる機関を見学することで、自分の考えがより一層深まります。そのような目的のもと、私たちは不定期に「社会見学」という企画を行っています。過去には裁判傍聴・国会議事堂等を見学しました。また、ALSAではアジア11の国と地域の法学生と国際交流を行っています。そのような交流のなかでは草の根の友情を育むことができます。さらに、国際社会で必要とされるグローバルな視点や素養を身につけることができます。

今回は、実際に保健衛生面での支援や教育支援などについてユニセフの活動を通して国際協力の具体的ななかかわりを学び、国際協力についての理解を深めることをねらいとしてユニセフハウスを見学することにしました。

2. ユニセフハウスの見学

今回は、ユニセフが行っている事業を通して「国際協力」のあり方を学びました。具体的には、ユニセフが、実際に使う物資などを手に取ったり、現場で行われている事業の話を聞いたり、ビデオを拝見したりして学習しました。

今回の社会見学では新入生が多かったのですが、皆がメモをとって真剣に話を聞き、積極的に質問をしていました。その点から、とても有意義な社会見学であったように思います。



ユニセフが活動している場所



ユニセフが支援する学校



参加者全員で研修後の記念撮影

【参加者の感想より】

- 普段何気なく募金されるお金が実際にどんな風に使われていくのか、こんなにも細かく知ることができて、改めてユニセフの活動の大きさを実感した。私達が思っているよりもはるかに些細なことで、多くの子供達の将来をつないであげられることに感動し、また日々の暮らしを思いかえして申し訳なく思った。
- 子どもの貧困や労働には興味があったので、大変充実した時間を送ることができました。これらの複雑な問題に、世界がどのようにアプローチしているのかが具体物等を通して知ることができました。
- 私たちにとって当たり前であることが知られていないということに驚いた（トイレの使用方法）。また、「教育」と「支援」を合わせて行っていくことで、初めてその国にとって助けとなるのだと実感しました。ビタミンAのサンプルをみることでよかったです。

3、まとめ

今回のユニセフハウスの訪問を通して、参加者は改めて「国際協力」について学びました。今回は新入生向けの企画だったこともありますが、特に新入生が、自分たちは国際社会のなかで生きているということを自覚し、そのなかで自分のできることは何かということを考え、今後の大学生活やALSAの活動で活かしてくれることを囑望します。